



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

「学校教育相談」の授業におけるグループワーク、  
ロールプレイの工夫

メタデータ	言語: 出版者: 岐阜大学教育推進・学生支援機構教職課程支援センター 公開日: 2024-04-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古田, 信宏 メールアドレス: 所属: 岐阜大学
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/0002000579">http://hdl.handle.net/20.500.12099/0002000579</a>

## 「学校教育相談」の授業におけるグループワーク、ロールプレイの工夫

東海国立大学機構 岐阜大学 教育推進・学生支援機構

教職課程支援センター 特任教授

古 田 信 宏

キーワード；学校教育相談，教育相談スキル，グループワーク，ロールプレイ，  
生徒指導提要

2022年(令和4年)12月，文部科学省は12年ぶりに「生徒指導提要」を改訂した。その中では，「教育相談は，生徒指導の一環として位置づけられ，重要な役割を担うものであることを踏まえて，生徒指導と教育相談を一体化させて，全教職員が一致して取組を進めることが必要です。」と記されている。生徒指導についても教育相談についても，この十年間で学問的な理論や技法がかなり明確になってきている。しかし一方で，「生徒指導は集団全体に対する指導，教育相談は個人に対する援助」というイメージはなかなか払拭されず，場合によっては教育相談をスクールカウンセラーに丸抱えさせる事例も聞く。

この授業は「学校教育相談」と称しており，学校という集団場面において教育相談をどのように位置づけ機能させるかを学ぶ場と考えている。受講生が学校現場ですぐに活用できるような実践的な形となるよう，授業の在り方を工夫し論考を加えた。

### 1. はじめに

#### (1) 教育相談とは何か？ 生徒指導提要の改訂

筆者は長年，小学校教員として奉職し，小学校長をもって退職した後，現職となって5年目を迎えた。大学時代に教育心理学を専攻していたこともあり，学校現場や教育委員会等においては，主に教育相談や特別支援教育を分掌としてきた。特に教育相談については，現在「日本学校教育相談学会 岐阜県支部」の理事長を務めており，学校現場において教育相談を実践してきた。

2022年(令和4年)12月，文部科学省は12年ぶりに「生徒指導提要」を改訂した。これは，小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について，時代の変化に即して網羅的にまとめ，生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り，組織的・体系的な取組を進めることができるよう，生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として作成されたものである。2010年(平成22年)に初版が発行されて以降，いじめ防止対策推進法等の関係法規の成立など学校・生徒指導を取り巻く環境は大きく変化するとともに，生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況にある。こうしたことを踏まえ，生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し，今日的な課題に対応していくため，12年ぶりの改訂が行われた。

この中で教育相談は、「第Ⅰ部 生徒指導の基本的なすすめ方」の「第3章 チーム学校による生徒指導体制」に「3.3 教育相談体制」あるいは「3.4 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」として特筆されている。

また、その教育相談の目的等について、次のように記されている。

教育相談の目的は、児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかけることであり、この点において生徒指導と教育相談は共通しています。ただ、生徒指導は集団や社会の一員として求められる資質や能力を身に付けるように働きかけるという発想が強く、教育相談は個人の資質や能力の伸長を援助するという発想が強い傾向があります。

この発想の違いから、時には、毅然とした指導を重視すべきなのか、受容的な援助を重視すべきなのかという指導・援助の方法を巡る意見の違いが顕在化することもあります。しかし、教育相談は、生徒指導の一環として位置付けられ、重要な役割を担うものであることを踏まえて、生徒指導と教育相談を一体化させて、全教職員が一致して取組を進めることが必要です。そのため、教職員には、以下のような姿勢が求められます。

- ① 指導や援助の在り方を教職員の価値観や信念から考えるのではなく、児童生徒理解（アセスメント）に基づいて考えること。
- ② 児童生徒の状態が変われば指導・援助方法も変わることから、あらゆる場面に通用する指導や援助の方法は存在しないことを理解し、柔軟な働きかけを目指すこと。
- ③ どの段階でどのような指導・援助が必要かという時間的視点を持つこと。

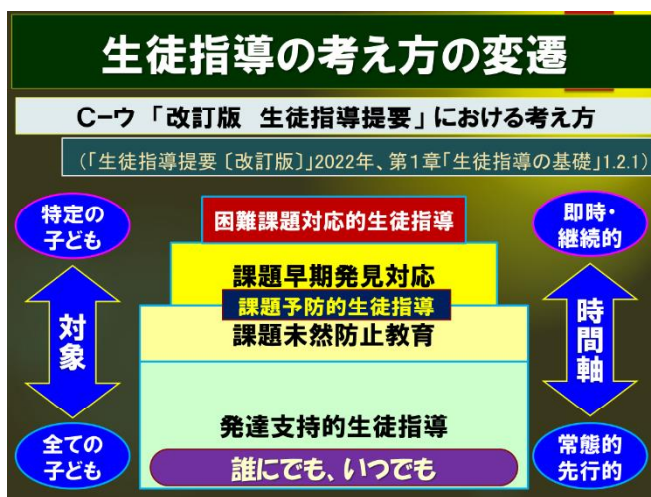
また、教育相談は、生徒指導と同様に学校内外の連携に基づくチームの活動として進められます。その際、チームの要となる教育相談コーディネーターの役割が重要です。

すなわち、教育相談が生徒指導の一環として位置づけられ、重要な役割を担っている。

生徒指導については、資料1に示すような「2類3軸4層」構造が新たに示されているが、これは従来「一次的教育支援」「二次的教育支援」「三次的教育支援」として示されていた教育相談や生徒指導の構造をさらに重層化したものと考えられる。

しかしながら、学校現場における認識としては、教育相談の重要性を理解してはいるが、学校がチームとして取り組もうという意識にまでは至っていないように感じている。

むしろ筆者は、スクールカウンセラーという専門職が配置されたことにより、相談のある生



資料1 生徒指導の2類3軸4層構造

徒はスクールカウンセラーが個人的に対応する方向に進んでいるようにさえ感じる。現在、岐阜県においては、学校現場の教員から「スクールカウンセラーが足りない」「週1回、年間30数時間ではとても時間が足りない」という声はたびたび聞こえてくる。このような声は、教育相談が専門職による個人的な対応と解されていることの表れであるように筆者はとらえている。

## (2) 教職課程における「教育相談」の単位認定について

岐阜大学の教職課程において、「学校教育相談」の2単位は必修となっている。

2020年以前、この科目は「学校カウンセリング」とされていた。「カウンセリング」という名称が個別的な対応をイメージさせることから、「学校教育相談」という名称に改めることになったと聞いている。

名称はともかくとして、「生徒指導」「教育相談」「進路指導」の領域に関する科目については、次のような記述がある。

「生徒指導」・「教育相談」・「進路指導」について、1999年度以前入学者は、法定単位数上、この中で1分野・2単位だけで済んだため、2000年度以降入学者の「生徒指導」・「教育相談」・「進路指導」から2区分以上4単位、という条件が満たせない場合もある。直接の科目ではない他科目で「教科又は教職に関する科目」に読替され、相当する内容を履修していると判断できる場合は、他大学の課程設置校によって、「生徒指導」・「教育相談」・「進路指導」から2区分ないし3区分を履修し、4単位以上確保していると判断できる場合もある。2010年入学者からは、3区分をすべて包括して4単位以上（科目としては、例えば、進路指導の内容を包括した「生徒指導論（進路指導を含む）」と「教育相談」の2科目（いずれも2単位科目）を履修し、計4単位という形であればクリアできる）の履修が必須となる。（「WIKIPEDIA「教職課程」 脚注30, 2024年2月1日閲覧）

すなわち、1999年以前に大学に入学した者（2023年度末年齢46歳以上の者）は、教員免許取得の単位として「生徒指導」「教育相談」「進路指導」は選択科目であったということであり、この年齢層の教員（管理職となっている者の比率はかなり高いと思われる）では「生徒指導」「教育相談」「進路指導」について理論的なことを学んでいないことが考えられる。

このように考えれば、2022年12月に改訂された「生徒指導提要」の内容が学校現場に浸透するまでには、まだ数年を要すると考えられる。そして、この内容を学校現場において具現化し実践・運用していくことが、筆者が今指導している受講生たちの責務になると期待している。

## 2. 授業実践について

### (1) 【グループワークについて】 学校教育相談は集団に向けたカウンセリング

とかく「教育相談」は個人に対して行うものというイメージがあるように感じている。このことは、前掲した「生徒指導提要（改訂版）」においても、次のような記述があることから察せられる。

生徒指導は集団や社会の一員として求められる資質や能力を身に付けるように働きかけるといふ発想が強く、教育相談は個人の資質や能力の伸長を援助するといふ発想が強い傾向があります。

各学校に配置されているスクールカウンセラーの多くは臨床心理学を専攻してきたと聞く。このことにより、個人的資質や個人の生育歴や家庭環境などの理解が重視されてきた。それはある面ではとても大切な視点と言えるが、一方では、学校現場の教員の多くが、「専門的な教育相談はスクールカウンセラーにまかせた方が良い」と考えるようになったことと無関係ではないように感じている。

しかし、学校現場の教員の多くは、学級などの集団の雰囲気や風潮、価値観が所属する成員の行動規範になっていることを経験的に知っている。学校の教育目標をはじめ、学級の目標を定め、それに向けて「心をつなぐ」にして取り組む時、個人に資質・能力の単なる足し算ではない力が働くことは、スポーツや音楽などではよく耳にする。「一体感」「ワンチーム」などの言葉は、そのことを表している。

反面、集団がいじめや学級崩壊などネガティブな状況に陥る時も、この集団の力は個々人の行動を大きく左右している。いじめにおいては、いじめられる者（いわゆる「被害者」）といじめている者（いわゆる「加害者」）の二者関係だけを見ていては、解決に至らない。その周辺にいて、このいじめの関係を面白がって冷ややかに見ている「観衆」や、表向きは見えて見ぬふりをしている「傍観者」などの存在が必ずある。この観衆や傍観者の存在が、集団の雰囲気や風潮、価値観に大きく影響し、ネガティブな状況をより悪化させることは少なくない。

では、この集団の雰囲気や風潮、価値観をつくるのは誰か。もちろん、個人的対応を専門とするスクールカウンセラーではなく、その集団に関わっている教員にほかならないと筆者は考えている。この意味で、集団に対して行われるカウンセリングはきわめて重要である。すなわち、個人の資質や能力を支え、その発揮や伸長を促す基盤として、集団へのカウンセリングが重要であるといえる。

そのために、過去に多くの集団に対する教育心理技法が提唱されてきた。その代表的なものが構成的グループエンカウンター（SGE）であり、クラスルームソーシャルスキル（CSS）である。こうした技法は、ソーシャルスキルトレーニングやロールプレイングなど、元来は個人の資質や能力を高めることを目標として開発されてきたものであるが、集団としての雰囲気や風潮、価値観を高めることに結びついている。

文部科学省の中央教育審議会では、2021年（令和3年）4月、『『令和の日本型学校教育』の構築に目指して』を公表している。この中では、2020年代を通じて実現すべき教育の姿として、「①個別最適な学び」と「②協働的な学び」を2本柱として掲げている。筆者の目指しているのは、この「協働的な学び」を支えるための（学級）集団づくりであり、それが「学校教育相談」の授業の大きな目的である。

## (2) 【実践①】 毎回変わるグループ

全 15 回の授業は毎回、開始直後にグループを新たに組んで実践を進めた。毎回グループが変わることは、実際の学校現場における集団づくりにはかえってマイナスに働くことも懸念されるため、どのようにグループを組み、一定の人間関係をどの程度の期間継続するとよいかについては、様々な議論があってよいと考える。

本研究においてグループを毎回新たに組んだのは、対象となる受講生が全 20 名前後と比較的少ないこと、ほぼ同じ集団で教職課程の授業を 2 年間受けてきておりお互いのことについてある程度理解をし合っていると思われることが挙げられる。

グループの人数は、2 人組（ペア）から「チーム学校」用の不特定多数まで、その授業の学修内容によって異なる。グループワークの内容など、具体的には以下の資料 2 に示す。

資料 2 「学校教育相談」全 15 時間の授業内容一覧

No.	月日	授業テーマ	グループワーク	グループ作りの方法
1	4 月 12 日	オリエンテーション 学校教育相談の意義 と役割	★仲間をさがせ ★わたしのプチ自慢 ・学校教育相談と何か？	「4 つで 1 つ」 4 種類で 1 組になるカードをあらかじめ組み込み、4 人組づくり 春夏秋冬、加減乗除など
2	4 月 19 日	教育相談スキル演習 (1)	★仲間をさがせ ★あいこじゃんけん ●スキル演習「受容」 ～うなずき、あいづち	「UNO」 教師机上のカードをひき、3 人組づくり
3	4 月 26 日	教師の教育相談的資質	★仲間をさがせ ★言葉をつないで ◆自身の教育相談的資質見直し	ひたすらじゃんけん 4 人組づくり
4	5 月 10 日	教育相談スキル演習 (2)	★仲間をさがせ ★おすしはおすき？ ●スキル演習「支持」 「繰り返し」	寿司シールをあらかじめ組み込み、3 人組づくり
5	5 月 17 日	教育相談スキル演習 (3)	★仲間をさがせ ●スキル演習「明確化」「質問」「リフレーム」	トランプによる 4 人組づくり

6	5月24日	児童理解の在り方とその方法～Q-Uによる学級集団理解～	▼Q-U ◆「いい学級」とは？	グループは任意 人数は不定
7	5月31日	予防・開発的教育相談(1) ～SGE～	★仲間をさがせ ◆記憶にある絵本 ★こう見えても実は私は ★人生紆余曲折	絵本カードを仕込み、 4人組づくり
8	6月7日	予防・開発的教育相談(2) ～ピア・サポート～	★仲間をさがせ ★チャレンジ・ザ・迷画	キャラクターシールを 仕込み、4人組づくり
9	6月14日	予防・開発的教育相談(3) ～感情に関する指導～	★仲間をさがせ ★表情あてゲーム	表情シールを仕込み、 4人組づくり
10	6月21日	学校現場で活用できる心理療法～ブリーフ・セラピー～	★仲間をさがせ ★心の中のオニさがし	動物シールを仕込み、 4人組づくり
11	6月28日	学校現場で活用できる心理療法～行動療法、認知行動療法～	★仲間をさがせ ★ごほうびリスト	マスキングテープを仕 込み、4人組づくり
12	7月5日	学校教育相談の課題～危機管理～	★仲間をさがせ ★新聞から話題を	色シールを仕込み、4 人組づくり
13	7月12日	チーム支援とその在り方	◆マインドマップ「支える」 ▼ケース会議のロールプレイ	ナンバーカードを仕込 み、校務分掌を指定
14	7月19日	保護者面接とその在り方(1)	▼教員と保護者のロールプレイ	自由席、近隣席でのペ アづくり
15	7月26日	保護者面接とその在り方(2)	▼教員と保護者のロールプレイ	自由席、近隣席でのペ アづくり

※ グループワークの分類について

- ★～SGE（構成的グループエンカウンター）のエクササイズより
- ◆～フリートーク（結論を求めない、ゴールフリーの話し合い、発表なし）
- ～カウンセリングスキル演習
- ▼～その他

### (3) 【実践②】 「チーム学校」を実践するためのロールプレイ

第13時においては、クラスの中の気になる子を取り上げ、その生徒の理解と対応について校内職員で行う「ケース検討会議」をシミュレーションして実施した。

具体的には「PICGIP法」に基づき、以下のような手順で実施した。

- ① 受講生一人一人に配布する資料（全員同じ内容）に番号を記したシールを貼っておく。
- ② 資料3「フェイスシート」に示す事例生徒NN男の担任を資料4「【演習用】県立柳戸高等学校 職員一覧」から指名する。  
（「1年B組」の担任である「No.11」のシールの持ち主、学生Aが「担任」となる）
- ③ 資料3「フェイスシート」にもとづいて事例の概要を授業者が説明する。  
（具体像を思い描きやすくするため、NN男はアニメの主人公をモデルに作成してある）
- ④ 担任は、詳しい情報が得られそうな校務分掌にある教員を数名指名する。  
（本時では生徒指導主事「No.4」、1年生学年主任・数学「No.7」、1年A組担任・社会「No.10」、1年C組担任・英語「No.12」、1年E組担任・体育「No.14」、科学部顧問「No.28」、養護教諭「No.37」、教頭「No.2」の8名が指名された。）
- ⑤ 担任からの指名を受け、教育相談主任（＝授業者）からケース会議への出席を依頼する。
- ⑥ 会議出席者は資料だけを持ち、席を移動してコの字型に着席する。
- ⑦ 会議の進行及びホワイトボードへの記録（→資料5）は、教育相談主任（＝授業者）が務める。  
\*出席者がメモをとらないのは、以下の3つの目的による。
  - (ア) 出席者の注意力が事例について協議することに向かうようにするため。
  - (イ) 出席者の持つ情報を共有するため。
  - (ウ) 出席者の取った記録が散逸しないようにするため。
- ⑧ 担任から概要を再度説明する。その際、特に「協議してほしいこと」に言及する。
- ⑨ 進行係（＝授業者）の指名により、出席する関係職員から情報を共有する。
- ⑩ 共有した情報について、質問があれば受け付ける。
- ⑪ 考えられる解決方法を自由に出し合う。その際、批判的な意見は受け付けない。  
\*ルールとして、以下の理由から「批判しない」ことが挙げられる。
  - (ア) 事例提供を守るため。
  - (イ) 出席者の相互作用から問題解決のヒントを探ることを目的とするため。
- ⑫ 提案された解決方法の実現可能性について検討する。
- ⑬ 提案された解決方法について、主たる担当者を誰にするか検討する。
- ⑭ その解決方法についての支援期間を検討する。  
\*進行係（＝授業者）は、①～⑭の内容が1時間以内で収まるよう時間管理をする。
- ⑮ 教育相談担当者（＝授業者）は、会議の内容を次時までにとまとめ、全員に示す。  
（→資料6）



資料3 1年B組NN男の概要を記したフェイスシート

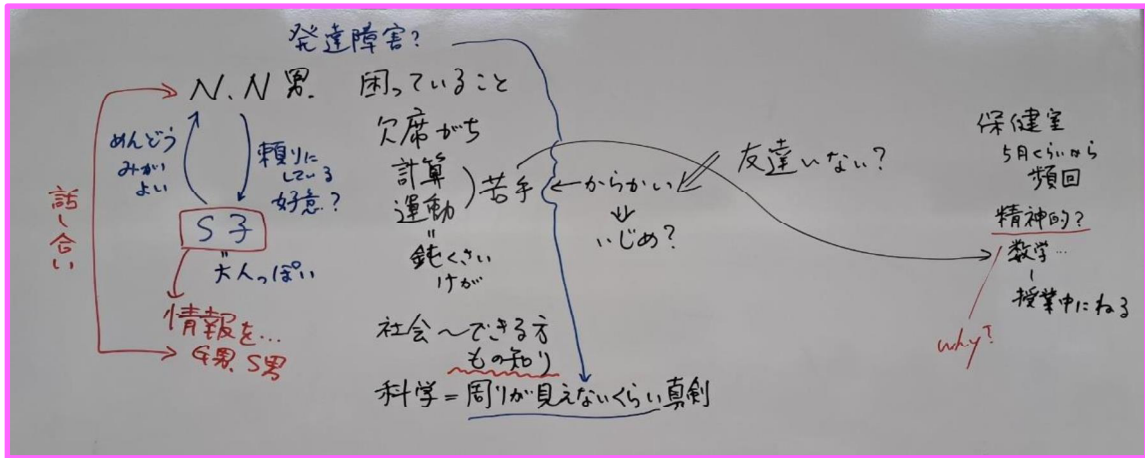
フェイスシート				△△県立柳戸高等学校			
学 年	1 年	クラス	B 組	出席番号	1 7 番	児童氏名	N. N
生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日			担 任 名	◇ ◇ ◇ ◇		
家族構成		父		母			
		〈会社員〉	本人 (N男)	〈主婦〉			
					3 人家族	※ペットとしてネコ1匹	
主 訴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6月頃から欠席が目立ち始めている（5月まで0日、6月は2日、7月は3日）。</li> <li>●欠席は週の前半に多い。仲間からバカにされることが一因と思われる。</li> <li>●計算が苦手。小3程度の計算でミスが目立ち、からかいの対象になっている。</li> </ul>						
困っていること	<p>歴史や地理、宇宙や古代生物などの知識はあふれるほど持っているのに、基礎的な計算力が未定着。漢字も、形がしっかりとれないことがある。</p> <p>数学や理科では、事象を公式にあてはめて考えるところまではできる。ところが、暗算でもできそうな簡単な計算の部分で間違えてしまうことが目立つ。</p> <p>数学では計算の遅れを補うために、5月末から電卓を使わせるなどの個別対応をしているそうだが、「N男だけずるい。」と言う子がいる（特にS男）。</p> <p>数学の授業中、個別に机間指導をしていると、「こんな簡単なことでも間違えるんや。」というひそひそ話がG男ら数人から発せられることがある。</p> <p>5月の連休明けには数学の授業になると腹痛を訴え保健室に行くことがあったが、6月の中旬頃からは数学のある日の欠席が目立つようになった。</p> <p>授業中に眠ってしまったこともある。起きているときに、突然、夢のような意味不明の話を小声でツブツつぶやき始めたこともある。</p> <p>運動能力もかなり低いらしい。幼児期から近所に住むG男やS男らは、その運動能力の低さもからかいの材料にしているようだ。</p>						
現在の対応	<p>担任から特別に小学校3～4年生程度の漢字や計算のプリントを宿題とした。</p> <p>各教科のノートは、N男のみ方眼ノートを使わせている。N男自身も、数字の桁をそろえることや文字の形を整えるためには、方眼のほうが使いやすいと言う。</p> <p>テストを除いて日常の数学や理科の授業では、N男のみ電卓の使用を認めている。</p> <p>できないことをからかう声が聞こえた時には、その場で注意をしている。</p> <p>本人が一番信頼している女子（S子）と近い席にしている。</p>						
主な生育歴・相談歴	<p>中学校からの申し送りには特記事項なし。</p> <p>（S子の情報では「からかいの対象のなりやすい子」だとのこと。）</p> <p>（小学校では通級指導教室での個別指導を勧められたことがあるらしいが、未確認。）</p> <p>家庭的にも気になる情報は入っていない。</p>						
諸検査の結果	<p>集団式知能検査（中学校2年生6月実施）＝IQ92</p>						
その他の情報	<p>科学部に所属</p>						

## 資料 4

## 【演習用】 県立柳戸高等学校 職員一覧

No.	氏名	校務分掌	担当教科	所属指導部会	担当部活動
1		校長			
2		教頭	理科		
3		教務主任	国語	教務部〔長〕	文芸部
4		生徒指導主事	美術	生徒指導部〔長〕	美術部
5		進路指導主事	英語	進路指導部〔長〕	チアリーディング部
6		保健主事	家庭	健康指導部	茶道部
7		1年学年主任	数学	進路指導部	テニス部
8		2年学年主任	国語	生徒指導部	水泳部
9		3年学年主任	社会	教務部	サッカー部
10		1A担任	社会	健康指導部	野球部
11		1B担任	理科	生徒指導部	剣道部
12		1C担任	英語	教務部	演劇部
13		1D担任	国語	文化指導部	文芸部
14		1E担任	体育	生徒指導部	陸上部
15		2A担任	社会	文化指導部	将棋部
16		2B担任	数学	教務部	陸上部
17		2C担任	理科	進路指導部	卓球部
18		2D担任	体育	健康指導部	柔道部
19		2E担任	英語	文化指導部	英会話部
20		3A担任	英語	生徒指導部	放送部
21		3B担任	国語	進路指導部	バレー部
22		3C担任	音楽	文化指導部	コーラス部
23		3D担任	理科	教務部	国際交流部
24		3E担任	数学	健康指導部	弓道部
25		情報教育主任	数学	教務部	パソコン部
26		人権教育主任	社会	生徒指導部	ソフトボール部
27		健康指導部長	保健体育	健康指導部〔長〕	バスケット部
28		文化指導部長	理科	文化指導部〔長〕	科学部
29		生徒会担当	社会	生徒指導部	ブラスバンド部
30		体育主任	保健体育	健康指導部	ラグビー部
31		図書主任	国語	文化指導部	書道部
32	★	教育相談主任 (特別支援教育コーディネーター)	国語	生徒指導部	新聞部
33		講師	保健体育		
34		非常勤講師	国語		
35		非常勤講師	書道		
36		A L T	英語		
37		養護教諭		健康指導部	
38		実習助手			
39		用務員			
40		事務長			
41		事務主任			
42		事務主査			

資料5 NN男に関するケース検討会議記録【ホワイトボード】



3. 学生の「学修レポート」から

筆者の担当する授業においては、毎回の授業の振り返りとして「学修レポート」を書かせている。受講生は、毎回のレポートのテーマに沿った内容について、本時の中で学び取ったこと、感じたこと、考えたことを500字程度にまとめて述べる。

この「学修レポート」については、授業後に全員分について評価とコメントを加え、翌週の授業で受講生に返している。さらに、その中から何人かのレポートを抜粋し、翌週の授業の冒頭で紹介するようにしている。その授業で生まれた疑問に答えたり、関連する知見を付加したりすることも多い。このことは、同じ授業を受講した他の学生がどんなレポートを作成しているかを知る機会でもあるし、他の学生がどんな学びをしてどんなことを考えたかを交流する機会ともなっている。

第13時（2023年7月12日）実施の「チーム支援とその在り方」の授業後、「学校がチームとして児童生徒を支援する必要性及びその際の留意事項について述べなさい。」というテーマで書かれた受講生のレポートを紹介する。

- 支援が必要な生徒について、一人で対応していると1つの視点でしかその生徒のことは見ることができない。しかし、様々な立場の先生と協力しながらチームとして支援することによって、一人の生徒の様々な側面を知ることができる。それによって、より有効な対応策を見つけやすくなると感じた。

ただ、たとえ1時間限定とはいえ、一人一人の生徒に対して今回やったような会議をするとなると、教員は大変だと改めて感じた。（工学部）

- 教科担任という立場でケース会議に参加することができ、とても面白かった。自分の見方とは違うとらえ方が出たり、自分の知らなかったその子の側面が話されたりして、作り話とはいえ新しい発見がいっぱいあった。

今回は進行役を先生が演じたので会議は比較的スムーズに進んだが、進行役がある程度見通しを持てる人でないと、進行は難しいだろうと感じた。学校の中で進行役を任される先生は、ある程度研修や経験を積んだ先生が指名されるのだろうか。（応生・生環）

- 様々な角度から見たNN男の姿がホワイトボードにまとめられているのを見ながら、実際のNN男のことを知らないのに、だんだんイメージができていった。それとともに、自分なりの対応策が思い浮かんでくるのが不思議なくらいだった。(応生・応生)  
また、全15時間を通した「学校教育相談」の授業全体の感想として書かされたいくつかのレポートも紹介する。
- 毎回グループを変えて授業が行われたことがとてもためになった。教育相談においては、教員側の聴く力がとても重要だと思うので、初めて話す人ともグループワークを行うことでその力を身に付けてられてよかったと思った。(応生・応生)
- 席替えによるグループワークによって、意欲や理解度が高まった。実例を元にした授業構成でとても分かりやすかった。学校現場における教育相談の実際を垣間見ることができた。(応生・応生)
- 実際の事例をたくさん知ることができた。それをもとにそのたびにグループで話し合い、より考えを深めることができた。グループワークも様々なものを体験できて、実際に学校現場に行ったときにすぐ使えそうだと感じた。(応生・生環)
- 自分はこれまでの学校生活で学級が荒れたこともなかったし、先生に呼び出されて指導された覚えもない。それが当たり前だと思ってきたが、学校現場では予期しないいろいろなことを起きることが分かったし、その場ですぐ対応が求められることも多いことが分かった。自分が教員に向いているのかどうか、自分でもよく分からないが、自分が指導的な立場になった時や、親として自分の子を育てることになった時、これまでの授業をぜひ役立てていきたい。(工学部)

#### 4. まとめとして

教職課程支援センターでの授業のうち、生徒指導、教育相談、進路指導、特別支援教育に関わる授業は、受講生たちがこれまでの小・中・高等学校においてなんらかの形で体験してきていることが多い。ところが、教員として指導者の立場でそれらの実際場面に立ってきた者はいない。したがって、これまでは児童生徒の立場で当たり前としてとらえてきたことや、場合によっては憤りも感じてきたことに対して、自分が指導者であればその状況をどう理解し対応するかを問われることは間違いなく初めての体験といってよい。その中で、「どうすればいいのか正直のところ分からない」や「正解がないこと問題を考えることがこんなに難しいとは思わなかった」といった感想が出てくるのは当然と言えよう。

今年度の傾向を見ていると、教職課程の受講生の多く(工学部及び応用生物科学部)は大学院に進学し、卒業後にすぐ教職に就く者は毎年数人程度である。修士課程修了後に教職を目指す者もいるが、仮に民間企業や公務員として就職した際には、誰もが指導的な立場に立たされることになるであろう。また、就職しないとしても、親として自分の子どもを育てることになれば、この「学校教育相談」の授業は必ず役に立つと筆者は信じている。

資料6 NN男に関するケース検討会議記録【まとめ】

支援チームシート

2023年7月12日 \*\*県立柳戸高等学校

文責；教育相談担当 古田

主たる支援課題	<p>○本人が自信を持ち、安定して登校できるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からかいの対象とならないよう、計算力を身に付けさせる。</li> <li>・仲間を上下関係で見ないで、ともに高め合えるクラスにしたい。</li> </ul>
---------	--

生徒氏名 N. N男 担任		学習面 (学習状況) (学習スタイル) (知能・学力) など	集団適応面 (人間関係) (情緒の安定) (生活習慣・行動) など	生活・進路面 (身辺自立) (興味・関心) (夢・希望) など	健康面 (健康状況) (身体的特徴) (運動能力) など
情報 の ま と め	(A) よいところ	・歴史や地理、宇宙や古代生物への関心が高く、もの知り。想像力、思考力も豊か。	・友人とのコミュー力がある。 ・科学部への出席率は高く、独自課題を持って進める。	・興味の幅が広く、ひらめきや発想力もある。 ・関心のあることに真剣に取り組む。	・運動能力は低いが嫌いではない。 ・内に籠もるタイプではない。
	(B) 気になるところ	・小3程度の計算でミスが多い。 ・漢字の形、英語の発音も不十分。	・からかいの対象になりやすく、話す友達は限られる。 ・言い返せない。	・知識の偏りが大き過ぎる。 ・夢のような意味不明の言動がある。	・授業中に寝る。 ・けがが多く、腹痛で保健室に行くことも増えている。
	(C) 試みたこと	・電卓の使用容認 ・方眼ノート ・個別の宿題 (小3～4程度)	・からかいに対しては、即、注意。 ・信頼しているS子の近くの席。	・中学校からの申し送り事項を確認した。	・養護教諭との情報共有に努めてきている。
支援 方針	(D) 現時点での目標と支援方針	<p>○本人への個別指導や支援は継続する。</p> <p>○本人のよさやできていることを、本人にきちんと伝え、ほめて意欲を高める。</p> <p>・G男やS男らとの友人関係について、関係職員も気を配り、場に応じて指導する。</p> <p>・発達障害の疑いもあるが、専門機関と連携し、助言してもらう。</p>			
支 援 案	(E) 今後の支援で試みること	○本人が得意とする知識に絡めた課題を出して生かす。 ○個別指導（電卓使用など）は全体とのバランス留意。	・頼りにするS子との関係を保つ。 ・学級の全員とのよさを知り合えるようなグループ活動を行う。	○科学部を居場所として活躍させる。(休日活動も) ○本人が望む将来像や仲間関係について話を聞く。	・保健室で休むこともある程度認める ・計算ミスや漢字の表記ミスについては、発達の専門家に相談する。
	(F) 役割分担	◎学級担任（理科） ○各教科担任（特に社会や数学） ○科学部顧問	◎学級担任 ○1年生学年主任 ・生徒指導主事 ・教育相談主任	◎学級担任 ◎科学部顧問 ○進路指導主事 ・生徒指導主事	○養護教諭 ○教頭 ・特別支援教育コーディネーター
	(G) 支援期間	※夏休み中も含め9月末頃まではこの支援案で取り組む。 (次回ケース会議は10月初旬とする。)			

## 【おことわり】

この論文の中で引用している受講生の感想や学修レポートについては、受講生の了解を得ているわけではない。したがって、できる限り個人が特定されないような形で、内容を変えない程度に原文を改変している。

## ◆ 参考文献

- ※ 「生徒指導提要（改訂版）」 文部科学省 2022年12月 デジタル版（東洋館出版社）
- ※ 『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』 文部科学省中央教育審議会（答申） 2021年4月
- ※ 「誰一人取り残されない 学びの保障に向けた 不登校対策 COCOLOプラン」 文部科学省 2023年3月
- ※ 「エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集」 國分康孝監修 林伸一・飯野哲郎・築瀬のり子・八巻寛治・國分久子編集 1999年11月 図書文化社
- ※ 「エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集2」 國分康孝監修 林伸一・飯野哲郎・築瀬のり子・八巻寛治・國分久子編集 2001年10月 図書文化社
- ※ 「『気になる子』が通常学級に溶け込む10の理論・10の技法」 曾山和彦著 月刊学校教育相談 2021年1月号増刊号 ほんの森出版
- ※ 「一瞬で良い変化を起こす10秒・30秒・3分カウンセリング」 半田一郎著 月刊学校教育相談 2017年1月号増刊号 ほんの森出版
- ※ 「構成的グループエンカウンター事典」 國分康孝・國分久子総編集 朝日朋子・大友秀人・岡田弘・鹿嶋真弓・河村茂雄・品田笑子・田嶋聡・藤川章・吉田隆江編集 2004年11月 図書文化社
- ※ 「新しい事例検討法 PCAGIP（ピカジップ）入門」 村山正治・中田行重著 2012年8月 創元社